

歯を磨けば命が輝く 歯原性菌血症の怖い話



花田 信弘（はなだ のぶひろ）
福岡県出身 歯学博士
鶴見大学 歯学部 探索歯学講座 主任教授
国立感染症研究所 口腔科学部長を経て現職。
全国各地の大学歯学部の講師を務める。

第2話 ヒトは血管とともに老いる

第2回目は口の中の毒が全身の血液に入ると血管内皮細胞に炎症が起こり、やがて動脈硬化になるということについてお話します。

ドイツの研究では平均年齢23歳のボランティアの方々の動脈硬化のマーカーを測定しました。前回お話した米国の研究と同様に3週間歯磨きを中止すると血液中の動脈硬化のマーカー(IL-6、hs-CRP、MCP-1)が上昇しました。続いて、歯科衛生士の歯面クリーニングと自宅での歯磨き再開により、動脈硬化のマーカーの数値は元の元気な状態に戻りました。この研究で**日常の歯磨きは、動脈硬化の進行に影響**することが新たにわかりました。

「ヒトは血管とともに老いる」という言葉があります。口の中の毒が血液に入ると血管が老化するのです。これが動脈硬化です。血管のない臓器はありません。歯の中にも血管があります。血液中に毒が侵入して血管が老化するとすべての臓器が老化します。

人間の最小発熱量の10倍量の細菌毒が一秒間に約50cmのスピードで血液とともに全身を駆け回りますから、人体の各臓器は大きなダメージを受けてしまいます。

最近では血管の老化度を測る機械が開発されており、私が所属する鶴見大学歯学部付属病院「スリーディーエス除菌外来」では、歯面クリーニングと同時に患者様の血管年齢をいつも測定しています。その結果、歯面クリーニングをすると血管年齢が若返ることもわかってきました。

また、血管の老化度は血圧測定で簡単に知ることもできません。血圧が高いということは、動脈硬化が進行した証拠です。口の中の細菌毒が食塩の過剰摂取とともに高血圧発症の危険因子であることに循環器病の専門家が気づき始め、歯周病が高血圧の一つの原因になるという概念が示されています。

口の中は細菌由来の毒があふれています。毎日3回以上の歯磨きをして死亡につながる病気を防ぐことが大切です。歯磨きに自信がない方は、歯科医院で歯科衛生士さんによる歯面クリーニングを受けましょう。



鶴見大学歯学部探索歯学講座

〒230-8501 神奈川県横浜市鶴見区鶴見2-1-3

TEL.045-581-1001

<http://dent.tsurumi-u.ac.jp/>



一般社団法人 口腔除菌協会

東京都港区六本木7-17-10

TEL.0120-59-6480

<http://www.kenko-station.jp>